

# ミツヤジーホームの家は『地震と火事に強い家』です

日本では、ここ20年ほどの間に立て続けに震度6、7という大きな地震が発生しています。2011年東日本大震災におけるツーバイフォー住宅の強震変形による全壊は0棟、半壊2棟。2016年熊本地震における強震変形による全壊・半壊は0棟という結果でした。<sup>\*</sup>

日本では伝統工法である「在来工法(在来軸組工法)」が主流でしたが、ミツヤジーホームでは設立時から「ツーバイフォー工法(枠組壁工法)」を取り入れてきました。

それは、パネル自体が地震に強い形状を持つことが理由のひとつ。

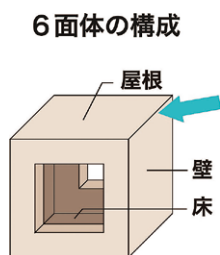
耐震等級2以上の建物が当社の標準装備。また、省令準耐火構造に適合する建物をつくっています。

また、ベタ基礎の施工にも独自の工夫を設けています。

一部特許の地下室技術を持つミツヤジーホームだからこそ、地下室のある家はもちろん、1・2階建ての家のベタ基礎にも地下室の技術と同じ施工をしています。

## 1 地震と火災に強いツーバイフォー構造

壁は主にツーバイフォー工法(枠組壁工法)を採用。ツーバイフォー住宅は、地震や台風などの力を建物全体で受け止め、荷重を一点に集中させることなく全体に分散し、**外力に対して抜群の強さを発揮**します。また、火の通り道となる床や壁においては、枠組材などがファイヤーストップ材となって空気の流れを遮断。上階への火の燃え広がりを防止します。ツーバイフォー住宅の**高い耐火性は、火災保険料率に反映**されていることから伺えるでしょう。



出典：一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会

## 2 内部を強固にする剛床建材 (TJI)

剛床建材(TJI)はロングスパンの施工が可能なので、広い間取りを実現しやすいのが特徴です。**床のたわみが少ない**ため、2Fでもピアノなどの重量物を設置できます。また床材の間に配管を通すことができ天井を下げる必要もないため、天井高を高く取れるのも長所です。



## 3 地下室技術による強いベタ基礎

地下室の部分が家の基礎と一体となるので、**地震時に地面と一緒に動き、揺れにくく**なります。地下室のない1・2階建ての家も、地下室と同じ工法でベタ基礎をつくるため頑強です。



さらに **ミツヤジーホームの家は約62%が「長期優良住宅」です!**

※H21年法律施行後～2017年2月実績

※日本ツーバイフォー協会調べ(会員会社の物件被害状況による)